

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 緑ヶ丘小学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 宗形 恵里

学校教育目標	学校経営の方針
心豊かで たくましく 自ら学ぶ児童の育成	<p>みんなでつくろう！「みどっ子の笑顔あふれるあたたかい学校」</p> <p>○ESD(持続可能な開発のための教育)の視点で教育課程を実施し、自ら考えて行動する力の育成に努めます。</p> <p>○自他の命を大切に、互いの良さを認め合う心情を育む「インクルーシブな学校づくり」をめざします。</p> <p>○「チームMDR」～全教職員の協働体制と、学校・保護者・地域の協働で、児童を育みます。</p>

今年度の重点目標

【学びを育む教育】ESDの視点で教育課程を実施し、主体的に学ぶ力の育成と確かな学力の向上をめざします。
 【心を育む教育】互いのよさを認め合い、可能性を発揮させながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、自ら考え行動する力の育成をめざします。
 【体を育む教育】自他の命を大切に、体力づくりや安全な行動・生活について、自ら考え行動する力の育成に努めます。
 【チームで育む体制づくり】児童支援チームの充実や関係機関との連携、地域・保護者との協働により、「みんなで」笑顔あふれる温かい学校づくりを進めます。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標の内容・取組	1・2・3	全教育活動を通しての取組 授業参観・学級懇談会 学校だより等で周知	内容や取組は、理解され目標が達成されている。	来年度もグループを3グループ編成にし、重点課題の達成を目指していく。
学校だより、学年だより、HP、緊急メール配信	3	教育活動の紹介 児童の健康・安全の情報共有 コロナ感染症対策や感染防止策 地域との連携	年間の教育活動の様子を、各種おたよりやホームページで公開し、十分理解されほぼ目標が達成されている。感染状況に応じた対策や取り組みを速やかに伝えることができた。学校運営協議会での取り組み等も学校だよりやHPで発信し理解されている。	学校ホームページの充実を図り保護者の要望に応える。緊急情報、不審者情報をすみやかに配信する。感染症等については、社会の状況に応じて対応が変化したことを発信していく。
人を思いやる心、いのちの大切さ	1・2・3	道徳教育の充実 人権週間の取組 児童教育相談の実施	学年、学級経営の中で、コロナ禍における行動や言葉遣いについて考え、いじめのない学校をめざした。道徳の授業を通して、人権意識を高め、思いやりの心や自他ともに命を大切に授業を展開した。	学校全体で授業や生活指導を通して、思いやりのある児童を育てたい。定期的にアンケートを実施し、児童教育相談もより充実させる。
家庭学習の習慣化	1	学習課題の計画、準備、実施 長期欠席者への授業支援 自主学習ノートの掲示	毎日の家庭学習は、定着しつつあるが個人差はある。児童の実態に応じた個別対応も行った。また一人一台端末が導入されたことにより、端末を使っての家庭学習の実施や長期欠席児童には端末を通して課題の指導をすることができた。	自主学習ができるような指導を行うことで、主体的な家庭学習の充実を目指す。そのために家庭学習への保護者の理解や協力を継続して呼びかけていく。
規則正しい生活習慣や礼儀正しい行動の定着	2	学級指導や保健だより等での指導	規則正しい生活習慣が健康な体にとって大切であることと、礼儀正しい行動が円滑な人間関係にも必要であることを指導した。	生活リズムがつかめていない児童に対して、家庭との連携をより一層図っていく。円滑な人間関係を築けるように礼儀正しい行動の大切さも引き続き指導していく。
安全教育、教育活動への配慮	1・2・3	全職員の共通理解のもと、毎日が安全な学校生活となるよう努力する。生活委員会児童の活動	危機管理意識を高くもち、全教育活動で取り組んだ。コロナ禍での避難訓練、防犯避難訓練、登下校指導、交通安全教室を工夫して行うことができた。三密を避け、感染症対策を講じる手立てを配慮しながらも目的を達成することができた。	安全的行事の反省をしっかりと行いさらによりものになるよう工夫改善を図る。「自分の命を自分で守る」行動を児童に繰り返し指導する。また、研修により教職員の安全教育への意識向上も図る。

子どもたちへの適切な配慮、支援、指導	2・3	チームでの対応 報告・連絡・相談の徹底 保護者への丁寧な対応	概ね理解され目標が達成されている。より適切な対応を目指し、連絡掲示板の活用や職員会議等で、共通理解の充実を図った。 日々子どもたちと関わる立場として、より一層先を見通した指導を全教職員で行えるようになるとよい。	食物アレルギー対応研修会を来年度も継続して行う。救急救命法の講習会と同日に行い研修の充実を図る。子どもたちの状況に合わせ、必要な支援を全職員でできるように共通理解をより一層図っていく。
わかりやすい授業の工夫	1・2・3	授業研究 教材研究	定期的に年間計画を見直し、児童の状況に応じた学習指導ができるように授業研究を行った。また、GIGAの導入も2年目を迎え、各学年を中心に効果的な活用方法を研修し実践することができた。	研究授業を中心に、校内研究、校内研修で研究を深め、教師力や授業力をさらに高めていく。また、カリキュラムマネジメントを全職員で行い、児童の実態にあった授業の工夫を進めていく。GIGA研修をさらに進め、効果的な活用について全職員で取り組んでいく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

コロナ禍において計画通りに教育活動を進めていくことが難しい状況の中、学校教育目標に向けての取組が、概ね適切に遂行されていた。学校だよりやホームページ等で学校の様子がよく伝えられている。子どもが主体的に学習していくことは、難しいこともあると思うので、学校でも家庭でも工夫を続ける必要があると感じる。今後も子どもが安心して楽しく過ごせる学校づくりを目指してほしい。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

昨年度に引き続き、コロナ禍における学習活動の対応や工夫を考えながら取り組んだ。今後は、感染症対策への取組は社会の状況に応じて変化していくと思うが、より主体的・対話的で深い学びの実現と、分かる・できる授業づくりを目指していきたい。また一人一台端末の積極的な活用に向け校内研に取り組んだが、次年度もさらに発展的な研修を行ってきたい。今年度も三密を避けるため、異学年交流が十分に行えなかったが、感染症対策を取りながらの児童会行事も工夫して行えたことは、今年度の成果である。さらに「児童が主役」となる特別活動の充実を図りたい。そして、すべての児童が所属感・安心感をもって学校生活を送れるよう教職員は児童理解や児童支援に努めていきたい。個別の対応が必要な児童や、様々な場面で困難を抱える児童をチームとして指導していく体制を充実させ、「みんなで」笑顔あふれる温かい学校づくりを進めていきたい。